

骨軟部腫瘍（肉腫）に関する国際多施設共同研究

1. 研究の対象

2002年から2017年までに、当院で骨軟部腫瘍（肉腫）の診療を行った患者さんを対象とします。

2. 研究目的・方法

骨軟部腫瘍（肉腫）は、発生頻度が稀な希少がんの1つです。稀な疾患ですので、その発生頻度や組織診断、治療内容や治療成績に関しては、明らかになっていないことが少なくありません。特に、アジアからのまとまった報告はないので、アジアにおける骨軟部腫瘍（肉腫）の発生頻度や診断、治療内容やその成績に関しては、よくわかっていないのが実情です。

そこで、シンガポールの国立がんセンターが中心となり、日本を含むアジア諸国から骨軟部腫瘍（肉腫）に関する情報を収集し、大規模かつ包括的な解析を行う国際多施設共同研究が開始されました。この研究では、アジア各国の骨軟部腫瘍専門病院で治療された骨軟部腫瘍（肉腫）の患者さんの治療内容や治療経過を解析し、アジアにおける骨軟部腫瘍（肉腫）の今後の診療および新規治療開発に役立てることを目的としています。

本研究では、既存の診療情報のみを用いた解析を行います。腫瘍サンプルなどの試料は用いられません。

研究実施期間（情報提供期間）：承認日から2028年11月30日まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

生年月、性別、初診日、診断日、併存症、手術日、術式、補助療法（化学療法・放射線治療など）の有無、過去の治療歴等、治療合併症、治療合併症に対する治療、再発の有無、再発に対する治療、予後情報等

4. 外部への資料・情報の提供

当院のデータはすべて匿名化し、研究事務局（シンガポール国立がんセンター）にパスワード保護された電子ファイル（エクセル）の形で、特定の関係者以外がアクセスできない状態で電子的配信されます。なお、患者さんの対応表は当センターの担当者が保管・管理します。

5. 研究組織

研究代表者：Mohammad Farid Bin Harunal Rashid

所属研究機関：シンガポール国立がんセンター腫瘍内科（シンガポール）

11 Hospital Crescent, Singapore 169610

既存試料・情報の提供のみを行う機関：

アジアサルコーマコンソーシアム (The Asian Sarcoma Consortium) 参加施設

6. お問い合わせ先

照会先

当院の担当者：川井 章

国立がん研究センター中央病院 骨軟部腫瘍・リハビリテーション科

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

TEL : 03-3542-2511

研究代表者

Mohammad Farid Bin Harunal Rashid

シンガポール国立がんセンター腫瘍内科